

No.3 件名 転出入者の実態について 他（平成28年3月受付）

内容	<p>平成27年町の人口は大幅に減少し一万人を割ってしまいました。老人の死が多くなったのは老人の人数の増加によって避けられない問題ですが一番ここで対策を考えなければならないのは転出者の増加です。27年の転入者200に対し転出者は317で実に転入に対し1.6倍近い転出者があることです。そこで先ず考えなければならないことは転入者、特に転出者の実態を調べこれに対する根本的な対策をとるべきだと思います。</p> <p>先ず転出入者の 1.性別 2.年齢別 3.職業別 4.主な転出先又は転入目的 5.転出先の職業と目的 6.転出しなければならなくなった理由 等をプライバシーを損なわない程度に調査し、これに対する根本的な対策が必要です。</p> <p>また、工場誘致はどう考えても無理です。消費地に遠い町では原材料の搬入製品の搬出に多額の出費がかかり地の利が悪いです。</p>
回答	<p>平成28年2月末の町の人口は9,793人で、平成24年から平成26年の3年間における転出者数と転入者数を比べると転出者の方が271人多くなっています。</p> <p>町では今後の定住促進施策に活用するため平成27年8月から転出届を出される際にアンケートを実施しています。</p> <p>その内容は、大多喜町での居住期間、性別、年代、転出時の家族構成、転出後の居住地や勤務地の他、転出の理由、町の各種施策に対する満足度をお聴きしています。</p> <p>今後は、このアンケート調査を参考として住民のニーズの把握に努め、誰もが住みやすいまちづくりを進めてまいりたいと思います。</p> <p>人口対策につきましては、転出者の抑制また企業誘致による仕事の創出、雇用対策は町としましても最重要課題と認識しており、これからも効果的な事業を推進してまいりますので、今後とも御理解、御協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>ご意見のありました工場誘致ですが、確かに難しい状況ではございましたが、平成25年4月に圏央道木更津東金間が開通し大多喜町も市原鶴舞インターチェンジから15分と交通の便も良くなり、さらに昨年12月17日から大多喜品川間の高速バスが運行を開始し、都心まで約1時間20分と交通アクセスが大変便利になったことから、大多喜から都内の企業に、また都内から町内企業に通勤することが可能となり、町からの人口流出の抑制や町内企業の経営環境の向上により雇用の拡大に効果があるものと期待しています。今後町としましても工場誘致を積極的に推進していきたいと思いますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。</p>